



第 2 3 号

平成 1 0 年

1 9 9 8

会 報

にしきうら



高知県立須崎工業高等学校同窓会

目 次

ご 挨 拶……………	同窓会 会長 寺田 郁雄…	1
ご 挨 拶……………	学 校 長 尾崎 翹彦…	2
学校近況……………	教 頭 中山 護邦…	3
進路指導部より……………	林 幸男…	4
関東支部だより 私達の修学旅行……………	佐々木征司…	6
京滋支部だより 会報『にしきうら』に感謝をこめて……………	古谷 光男…	7
中京支部だより これからが本番……………	沖 良二…	8
高知支部だより 外国で同窓会……………	吉岡 豊延…	9
須崎支部だより……………	竹田 友一…	10
野並允温画伯 高知市に作品を寄贈……………	井上 健弘…	11
「シード校を倒す!」を合言葉に……………	柳本 朋幸…	12
第2回須崎支部 かわうそ杯ゴルフコンペ開く……………		13
事務局長退任の挨拶……………	井上 耿介…	13
事務局長就任の挨拶……………	津野 隆…	13
事務局だより……………		14
平成9年度決算並びに平成10年度予算……………		15
会報届先不明者……………		16
終身会費納入者(1年間分)平成9年10月1日～平成10年9月30日……………		18
平成10年度役員……………		19

ご挨拶

同窓会の皆さんにはお元気で御活躍のことと御慶び申し上げます。

扱、会員の皆さんには、日頃より同窓会活動に御理解と御協力を賜り、誠に有難う存じます。衷心より厚く御礼申し上げます。

御蔭様をもちまして、会員数も約八千八百名となり、いよいよ各支部も充実し、全国いたるところでそれぞれの分野で立派に活躍されております。誠にものしいことであり、御同慶のかぎりであります。

又、昨年皆様方にお願いました救急艇建造資金協力につきましては、このきびしい時節にも拘りませず、過分なる御協力を賜り御蔭様をもちまして目標額を達成することができました。

そして十月救急艇は立派に完成し、その名も「ネグロス高知」と命名され、関係各位の見守る中、ネグロス州知事殿にめでたく贈呈されました。

今頃は、遠くフィリピン海域を雄飛していることでありましょう。皆様方の御協力に対し心より厚く御礼申し上げます。

さて本年八月九日予定通り開会いたしました同窓会総会には、県内外支部の御協力により盛況裏に大会を終了することができました。

当日には、母校に御縁のある恩師の先生方の御来

昭和21年機械科第一種卒

同窓会会長 寺田郁雄

臨を添けなくし、往時を偲んだ愛情のこもったお話があり、一同有難く拝聴いたしましたことであります。

さて、経済大国といわれる我が国の現状は、新聞等で報道されておりますとおり暗雲たち込めた先のみえない状況にあります。各企業は設備投資意欲を失い、リストラは進行し多くの人々が職を失い、甚では中小企業の倒産が噂されております。そして絶対潰れないと信じていた、大手銀行も数行潰れてしまいました。

そして、世の中は小字化が進み、小中学校の統廃校が行われております。

会員の皆さんには、すでに御案内のとおり、母校は電気と機械の二クラスが減少し、正に学校運営のボーダーラインにある現状であります。

高知県は、室戸に綜合学科を導入し、その結果、室戸水産高校等数校を廃校いたしました。

そして次は、須崎と安芸ではないか、との情報があり、早速色々の角度より県の意向を打診しましたところ、「現時点で須崎工業を統廃校ということは考えてない」との言葉をいただき、一応安心したところではありますが、今後絶対にないとの保証を得たものではありません。

将来、生徒数が更に減少すれば、不測の事態を覚

悟しなければならぬのではないかと思われます。

会員の皆さん、私達の代で、伝統ある工業の灯を消すわけには参りません。それでは、どうすべきかと、いうことですが、それはなかなかむずかしいことでありましょう。今私達にできることは、学校当局の御指導を得ながら、先ずは一人でも多くの生徒が母校に入学してくれるよう協力することではないでしょうか。生き残りの道は、それにつきると思います。会員の皆さんの奮起と御協力をお願いします。そして会員相互の友情の輪を拡げながら、同窓会活動を活発に行い、互いに英知を結集し、母校の隆盛に寄与すべきではないか、と思う次第であります。終りに臨み第二十三号会報「にしきうら」発刊に際し御努力されました、事務局の先生方並に、関係各位に対しまして、心より感謝いたしますと共に、慎んで御礼申し上げます。

母校の更なる隆盛と会員の各位の御健勝を衷心より祈念いたしまして御挨拶いたします。



ご挨拶

学 校 長

尾 崎 翹 彦

同窓会の皆様には、ますますご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。

日頃は、母校のために何かとご支援ご協力を賜り心より感謝いたしています。

昨年十一月には本校造船クラブを中心としたフィリピン・西ネグロス島への救急艇「ネグロス高知」建造に際しましては、同窓生の皆様方には物、心両面にわたる多大のご援助に対し心より厚くお礼を申し上げます。

さて、本年八月九日には本校同窓会創立五十七周年にふさわしい総会が多くの方々のご出席のもとに盛大に開催され、その席において立派な先輩諸氏にふれ、改めて本校の先人達のすばらしい業績や努力に対し敬意を表し、心より感謝を申し上げますと同時に本校の長い歴史と伝統を後世に伝えていく責任を深く感じているところであります。

国や県において教育改革が行われ各審議会の「まとめ」や「答申」が次々とだされております。その中で工業高校にあつては、産業構造・就業構造・技術の高度化・情報化・国際化・少子高齢化等が進む中で、社会や産業の急激な変化に対応でき、そして一人一人の生徒の個性をいかし、将来のスペシャリストとして必要な専門性の基礎的、基本的な知識や技術を確実に修得させることができる教育が大切に

あると言われています。

そのような状況の中で、本校を取り巻く教育状況は大変厳しいものがあります。特に中学生の急激な減少にともない、今後ますます少子化が進むことが予想され、本校の将来をどのような「魅力ある工業高校」にしていくなかについて早急に検討しなくてはならないと思います。

そのためには、多様な特性や進路希望を持った生徒のニーズに応える事の出来るような、多くのメニューを提示し、その生徒の特性にあつた教育方法を考え魅力ある学校づくりをしていかななくてはいいかと考えています。本校におきましては、そのための「プロジェクトチーム」をつくり検討する準備を進めているところであります。どうか今後とも本校のためにご指導ご協力いただきますようお願いいたします。

最後になりましたが、本校同窓会のますますのご発展と会員の皆様のご健勝ご活躍を心よりお祈り申し上げます。



学校の近況報告

教頭 中山 護 邦

同窓会の皆様方には、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。また、日頃から母校の教育にご理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。さて、私はこの四月より高知東工業高校から着任しております。以前、電気科に勤務しておりましたので大変懐かしく思っております。それでは、母校の近況をお知らせいたします。

本年度より、機械科・造船科・化学工業科・電気科の各学科とも一クラス定員四〇名・全校定員四八〇名の規模となりました。現在の在籍数は表のようになっています。いま、中学卒業生が減少しているため、厳しい時代となり、本校の将来像について、検討の必要な時を迎え、その準備に入っております。そこで入学許可した生徒は全員卒業させることを目標にして指導にあたっています。一学期は退学者無しの良好な結果となっています。教育重点目標は昨年同様、基本的な生活習慣の確立と、学力の向上の二つを掲げて指導に力を入れています。大半の生徒は学業や国家資格の取得また部活動等に頑張っています。

今春の卒業生は、この不況で就職難の中、伝統と県内外の先輩諸氏のご活躍のおかげで、卒業生百二十八名中百六名は県内外の企業等

学 年	1	2	3
機 械 科	40	36	34
造 船 科	33	27	26
化 学 工 業 科	40	18	21
電 気 科	26	20	25
計	139	101	106

全校生徒数 346名

へ就職し、二十二名は専門学校等に進学いたしました。

本年度の主な学校行事は開校記念行事を、五月二十七日に実施し、記念講演として

演題「人との出会い」ABS(株) 日本マネージャ

昭和三十七年造船科卒 岡林 謙氏

の海外における輝かしい活躍等、現在に至る諸々のお話で教員及び生徒一同、大変有意義な開校記念講演を聴かせていただきました。ありがとうございました。続いて、恒例の科別対抗綱引き大会を行いました。続いて、恒例の科別対抗綱引き大会を行いました。団結の強かった造船科の圧勝に終わりました。

六月には、企業の協力を得て一日体験入社を各科とも実施しました。就職等の進路決定が目前に迫っている各科の三年生が、それぞれ学校では学ぶことのできない企業現場の最新の生産設備見学や先輩たちの真剣に働く姿を見て、自分たちの勤労観・職業意識を高めました。

・電気科 (株)日鉄鉱業
・化学工業科 下知下水処理場
・機械科 東洋電化工業(株)・セイレイ工業(株)
・造船科 三井造船(株)
次の、生徒会新執行部が六月に選出されました。

・生徒会長 3E 明神有穂
・生徒会副会長 3C 中平淳志
・体育委員長 2C 津野浩史
・文化委員長 2S 駄場広稔
・執行委員 2M 島田和也
・執行委員 2S 松本和寿

さて、今学期は次に三年に一度の第十八回文化祭が十一月一日(日)に開催の予定で、学校挙げて準備中であります。前日には恒例の生徒達の仮装行列も

須崎市内に繰り出す予定です。同窓生の皆様、ぜひ母校文化祭に足を運んで頂きたいと存じます。紙面の都合で短いながら母校の近況報告とさせていただきます。

転出転入職員紹介

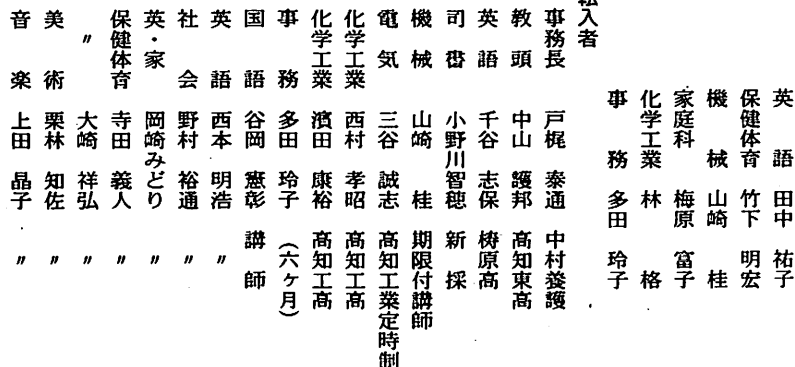
平成十年度人事異動

転出者

教 頭 大谷 修二 高知工業高定時制
事務長 片岡 啓輔 須崎高
社 会 原 正人 宿毛高小筑紫分校
司 書 白川 典子 高岡高
保健体育 高橋 志治 山田高
機 械 井上 耿介 高知東工高
機 械 中山 誠二 高知東工高
化学工業 武内 孝明 安芸工高
化学工業 国久 明年 高知工高
電 気 矢野 元朗 高知工高
電 気 山形 錦生 高知海洋高
事 務 大西 多津 須崎高久礼分校
英 語 岡林 美樹 幡多農高
美 術 高野 留里 高知小津高

高校総体事務局より

保健体育 井上 明
機 械 井上日出男
留学者 英 語 千頭 啓介(二年間)
退職者 機 械 藤岡 常幸(後期)
離任者 英 語 西川 志暢
社 会 池田 真紀



林幸男

高校卒業後の進路に携る仕事に就いて二年目になります。昨年は、色々な面で四苦八苦しておりました。今年は、その経験を生かして取り組んでいます。が、まだまだ力不足ですので、皆様のご協力の程よろしくお願い致します。

さて、八月の月例経済報告で、景気は低迷状態が長引き、はなだ厳しい状況にあるといわれました。本校への求人状況についても、表に示しましたように、過去最低の数です。今年の生徒は厳しい就職活動に、過去最低の数です。今年の生徒は厳しい就職活動を強いられています。九月の入社試験突破を目標として、現在その準備をしています。

また、近年専門学校を含めた進学者が増加しています。昨年は四年制大学への進学者はいませんでした。今年には五名以上の希望者がいます。十月から始まる推薦入学試験合格を目指して、これまた頑張っています。

進路状況の推移及び地区別就職先人数また平成九年度の就職先企業及び進学先学校を示しました。ご覧になってもわかりますように、生徒の多様化とともに生徒数が少なくなっています。現在本校には、一学年で各科クラスずつの四クラスしかなく、生徒数の減少の影響が本校にもあらわれています。以前にも述べましたが、平成十二年には、県下の高校生は七千人ぐらになるといわれています。本校創立五十七年の歴史を守っていくには、ぜひとも卒業

10年度は8月24日付希望者数

生の皆様の温かいご声援ご援助が不可欠だと思つて
います。なにとぞ今後ともお力添え下さいますよう
よろしくお願い致します。

平成九年度就職先企業（H十年三月十八日現在）

○県内（株）SKK M1・セイレイ工業株 M2・

東洋電化工業株 M2・松下寿電子工業株 須崎
工場 M1E1・（株）山崎技研 M1・須崎鋳造株

M1C1・伊野紙株 M1・高知レンタル株 M
1・三和製紙株 M1・トヨタビスタ高知株 M
1・筒井建設株 M1S1・菱高精機株 M1・

中予電器株 佐川工場 M1・岡石油店 M1・増
田商事株 高知営業所 M1・共立シャッター工業

株 M1・たくみ裝飾（有） M1・第十八順洋丸
M1・（株）上岡工務店 M1・新高知重工株 S

1・（有）釜原鋳鋼所 S1・オカムラ工務店有 S
1・（四国機器株）S1・（株）ユーケーテクニカ S

1・ニッポン高度紙工業株 C1・ササオカ株
C1・（有）久礼コンベヤ C1・四国電力株 高知

支店 E1・（株）四電工高知支店 E1・土佐ガス
株 E1・技研製作所 E1・（株）四国舞台テレビ

照明 E1

○中四国 東京製鉄株 岡山工場 M1・川崎製鉄
株 水島製造所 M1・大王製紙株 M1C1・（株）

新来島どつく M1E1・波止浜造船株 M2S1・
マツダ株 M1・石川島播磨重工業株 呉事業所

S1・YKK株 四国工場 S1・神原海洋開発株
S2・今治造船株 丸亀事業本部 S1・常石造船

株 S1・神田造船所株 S1・（株）サノヤス、ヒ
シノ明昌水島製造所 S1・幸陽ドック株 S1・

大倉工業株 C1・四国旅客鉄道株 E1

○関西（株）神戸製鋼所 M1・三菱重工株 神戸
造船所 M1・川崎重工株 神戸工場 M1・（株）
淀川製鋼所 大阪工場 M1・（株）一光大阪支店 M
1・東和ビル管理株 M1・住友ベークライト株
尼崎工場 C1・東洋ガラス株 大阪工場 C1・
（株）ムツミ堂本店 C1・三洋電機株 産機システム

事業本部 E1・（株）クボタ E1・（株）関西テック
E1・（株）栗本鐵工所 E1・ダイコロ株 E1・
ダイハツ工業株 E1・大電設備工事株 E1・
栗原工業株 E1

○東海 トヨタ自動車株 M2E1・トヨタ車体
株 M1・（株）豊田自動織機製作所 M1E1・ベ
スト産業株 M1・日本鋼管株 津製作所 S1・

（株）カナサシ豊橋工場 S1・（株）CKK C1・東
レ・モノフィラメント株 C1・黒金化成株 知立

工場 C1・シャープ株 液晶三重事業本部 E
1・愛知製鋼株 E1・岡本通信工業株 E1・
豊国工業株 E1

○関東 新日本製鉄株 君津製鉄所 M1・川崎製
鉄株 千葉製鉄所 M1・住友重機械工業株 横須賀

造船所 S1・新日軽株 船橋工場 C1・東洋ガラ
ス株 川崎工場 C1・日本自動機器保守株 E1

平成九年度進学先学校

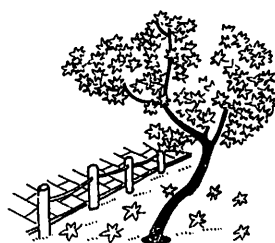
九州電機短大・電気電子科 E1・ポリテクカレッジ高
知・生産技術科 M1E1・ポリテクカレッジ香川・機

械システム科 E1・高知情報ビジネス専門学校・情報
システム科 M2・高知情報ビジネス専門学校・ホテル

観光科 C1・国際デザインカレッジ・オートメカニク
科 M1・国際デザインカレッジ・グラフィックデザイ

ン科 E1・高知福祉専門学校・介護福祉科 S2C

1・高知理容美容専門学校・美容コース M1S1・九
州測量専門学校・土木建設科 M1・神戸電子専門学
校・情報処理科 C1・広島情報ビジネス専門学校・情
報処理コース E1・大阪調理師専門学校 E1・清水
海員学校・専修科 S1・大阪ゲームデザイナー学院
M1・高知公務員学院 M1・（株）倉田プロモーション
C1



私たちの修学旅行

三十一T 佐々木 征司

いろいろな学年やクラスでも同一の集まりが盛んだと聞いておりますが、私達も母校創立五十周年記念同窓会会員名簿作成を機に「三十一T会」を充足させ、毎年このクラス会を開催しております。

最初は関西在住者が中心でしたが、やがてわれわれ関東組も仲間入りさせてもらい、今や全国規模の集まりとなりました。

昨年の箱根温泉に続いて、今年の「三十一T会」は、再び関西在住の中道・西田・藤見・山本君達の労で、七月中旬祇園祭りの京都に集まりました。

特に今回は機械科同年の森君にも参加願って京都市内のホテルをベースに清遊。翌朝錦市場、京極寺町を経て本能寺。三条河原町から龍馬ゆかりの宿・酢屋嘉平衛宅（海援隊京都本部）で記念写真。

続いて日曜日の午前中の静かな先斗町を散策しました。こんな時間には珍しく突然現れた舞妓さん、急いでカメラを構えようとしたが間に合わず、一軒のお稽古屋さんに姿を消してしまいました。

年齢の割にはみんな健脚ぶりを発揮して清水寺に上がり、若いカップルたちに混じって、あの舞台からの景観を愛で、ビールとかき氷で涼をとりました。

思えば同じ教室で青春時代を過ごした仲間も今では現役組・リタイヤ連とまだ模様の年代に入りました。今後何年元氣な顔を合わせることができたらうか？とやはり老いの心境です。

できれば造船科(S)・機械科(M)・電通科(T)の同年によるSMTトライアングルの集い等も懐かしいナア、と考えるこの頃です。

前夜の宴席で、来年の「三十一T会」は四国在住の上村君達に頑張っていただき、松山を拠点に四国を探索することが決まりました。より多くの仲間を集まってもらい、帰路は先祖の墓参りを兼ねて……、今から楽しみにしております。



筆者は左から3人目



<31T会98年>

感謝をこめて

体育部長 古谷 光 男

同窓の皆様方には、お変わりなく御健勝のこととお慶び申し上げます。

私も卒業しまして四十四年の歳月が経ちました。こうして支部便りを書くことの出来る幸を感じ乍ら母校事務局よりの会報『にしきうら』の御送付を頂き、有難く拝読させて頂き、学校のこと、先生方の御尽力又同窓生諸氏の各支部での、御活躍又人生の体験談等々人生それぞれとは言うものの、長い人生の内の僅か三年間の母校での学びが、過ぎ去った年月を忘れ、こんなにも懐かしくついこの間のようになっていたのだらうと想像するだけで、「ニヤツ」と笑えてくる。いつか逢える日を楽しみに元気で、頑張る事も気持にはりが出来て良いことだと、自分自身に言い聞かせ乍ら日頃の御無沙汰のお詫びの気持も兼ね、此の度京滋支部の体育部長を拝命し、田村支部長の『皆さんで楽しむ支部活動を』のキャッチフレーズに微力乍らも、お手伝いが出来る喜びと、参加して下さる皆様方に楽しい想い出とふれあいができればと思っています。

今年の体育部の活動としては、五月三十一日三上山（別名近江富士）に登山をして近江富士花緑

公園を散策し希望ヶ丘公園にてグランドゴルフをして楽しみました。

七月十二日は、須工同窓会ゴルフコンペとしまして琵琶湖大橋ゴルフコースで賑やかに楽しみました。プロもビックリ中々上手な人も、因に私はべべでした。前支部長の廣瀬理大先輩も御参加を頂き、の好スコアでした。終わった後の一杯飲みながらのの樂に花が咲きます。こうした支部活動に、一人でも多くの同窓生の皆様に参加して頂きふれあいの輪を広げたく役員一同力を合わせて頑張つて行きますので今後共御支援、御鞭撻の程お願い申し上げます。

私事で甚だ恐縮ですが、近くの小学校の子供達を中心に少年野球を指導しておりまして現在団員四十八名指導者十五名神明スポーツ少年団として創部以来二十二年が過ぎました。宇治少年野球連盟主催の大会や全京都の大会に参加をして、子供達に野球を通じて色々な体験をしてもらい又楽しい思い出を作ってもらってこれからの人生に役立つことが出来ればと私も一緒に楽しんでおります。嬉しい事に今年の春夏の甲子園大会に京都より出場しました京都成章高校で活躍をしました三富武史君は、私共の少年団の出身者で、応援にも行きましたが私共にとつては大変嬉しい事です。又近くで少年野球に関係している方が居ましたら御一報下さい。交流試合でも出ればと考えていますので宜敷くお願いします。

最後になりましたが日頃の御無沙汰をお詫び申し上げ、同窓生の皆様の今後益々の御活躍と御健康をお祈り申し上げます。



ボウリング～琵琶湖博物館見物 8月30日

これからが本番

昭和三十九年機械科卒

沖 良 二

同窓生の皆さん、お元氣にお過ごしでしょうか。日本の真ん中に位置する中京支部からおたよりします。

中京支部は、愛知、岐阜、三重、静岡の東海四県に、総勢三百三十余名が在籍しています。

私が名古屋にきた頃は、中京支部の行事も参加二十〜三十人くらいだったように思います。(名簿を見ると在籍者は約六十名。三十五年も経つと随分たくさん卒業生が、日本の隣に集まって来たものだと思います。今更ながら、母校の先生方の努力に感心する次第です。

私の会社では、先輩は三人で、やがてそれぞれ他の工場や支社に転任になり、今では一人になってしまいました。近郊の人材採用で、高知県からの採用がなくなつたのです。会社(名古屋製作所)での高知県出身者は、須工と高知工だけで、しかたなく四国四県で「四国県人会」を作っています。四国といつても、総勢で二十名弱のこじんまりとした集団で、時々集まつたり旅行をしたりしています。「四国県人会」は高知県出身者が多いことから、土佐料理の店で土佐弁丸出しでにぎやかな宴会となります。人数が少ない反面、小回りがきき、メール便や電話で容易に連絡がとれるため、健保会館など手近な所にくるに集まつて、土佐弁が聞けることになりました。

私の勤める名古屋製作所では、モーターなどの基

幹機種と放電加工機、レーザ加工機のメカトロ機種、シーケンサ、インバータ、NC装置を生産しており、半導体関連機種のウエイトが高くなっています。今では、制御や管理がコンピュータ抜きでは語れない時代になりました。母校でもコンピュータの授業や設計(CAD)などに取り組んでおられると思います。何年か先には、そうした後輩達が、わが社にも入社して、土佐弁を聞かせてほしいものです。

さて、中京支部の同窓会活動について、近況をお知らせ致します。中京支部は、次のような人員構成になっています。住所別人員(九十八年一月現在)

愛知県	岐阜県	三重県	静岡県	不明	合計
二百三十二人	十四人	四十七人	四十人	一人	三百三十四人
六十九%	四%	十四%	十二%	〇%	一〇〇%

昨年、アインシ高丘株の沖本専務中京支部長と相談の上、十月に支部活動再開に賛同いただいた職域幹事の方々を中心に初会合を行い、今後の進め方につき話し合いを持ちました。

そして、昨年末から名簿の整理とともに支部の幹事選任と規約作りに着手。今年二月に須工から津野先生の臨席を得、支部大先輩の春田氏にも出席していただき、有志十三名で新年会をかねて、支部の活動の骨子を定めました。活動は、当面の間、各県単位で行うことにしました。

なにしろ、長い間休眠状態だったため、大多数の人が中京支部の存在を知らなかったと思います。そのため、支部全体の行事を計画したとき、参加者が

何人になるのか、見当もつかないのです。

幹事さんは、二回の会合に参加いただいた方々をお願いすることにしました。中には、すでに定年をすぎた先輩もいて、後輩の面倒を見てくださいます。愛知県以外では、次の方々に県分会長をお願いしました。愛知県以外には、県の役員が未定になっていました。この記事を見て、是非世話役を申し出てほしいと思います。どうせ誰かが必要ならば、思い切つて世話役を買って出てほしいのです。各県で数名の幹事さんが必要です。電話など連絡をお待ちしております。

という訳でこれからが本番です。

岐阜県 西森武光

千五〇三〇一二五

岐阜県安八郡安八町牧一〇〇一六

〇五八四一六四一三九六四

三重県 明神聖嘉

千五一九一〇一〇六

三重県亀山市みどり町十一一七

〇五九五一八二一七四三一

静岡県 西村仁利

千四三二一八〇〇二

静岡県浜松市富塚二一三五一二一

〇五三三四七六一八七八五



外国で同窓会

再開した崔さんの事など

昭和二十年機械科卒

吉岡豊延

それは大変ドラマチックな旅でございました。その経緯を綴ります。

前高知支部長森下春茂さんのライフワークとも言える①須工同窓会を網羅したイベントを一度やりた②今は外国人となった同窓主として朝鮮半島・台湾出身者で旧制の頃在学との活発な交流③特に「崔權炯氏」を通じて韓国有力工業高校との姉妹校連携運動の推進など。

それが嵩じて、「須工同窓会で韓国旅行をしよう崔氏と会わなければ」と思考は広がり、明けても暮れてもひたすらこの話題の森下氏の情熱にほだされて、いつの間にかやら私もその輪の中に嵌ってしまいました。

有力な後輩のパワールの誘いもあり、県外からの仲間を含め二十一名の参加者を得て二月二十五日、高知会館に高知支部役員共々集合し、田辺博造元同窓会長を団長に強制指名後、晴れがましくも「須工同窓韓国友好訪問団」結団式となり井上健弘高知支部長の、「日韓友好・崔權炯先輩との友誼交流の成功を！」の熱く力強い激励で乾杯して五月十四日、日本を出発します。

ここで「崔權炯氏」に触れます。彼の事は五十年誌にありますが彼の幼少の頃を改めて知り、須工同窓としての遅ましく且つぬくもりのある人間性が



韓国にやってきた須崎工業高の同窓生を横断幕で迎えた崔權炯さん（前列左から8人目）＝5月14日、金浦空港

「センタンは双葉よりも香ばし」の古語の如く幼少より豊かに育まれていた事を知る為には是非、要約し再掲いたします。

崔氏手記

私崔權炯一九二七・十一・九は七才の時父母に連れられて日本に移住し、日本名は奥田一郎となりました。

一九四三年日本軍国主義下植民地政策の一環であった創氏改名令によって高山權炯と再改名され、須工入学は奥田一郎、卒業時は高山權炯、一九四六年祖国開放で帰国して元の崔權炯になりました。

日本移住の翌年、何もわからぬまま須崎新荘小学

校へ入りましたが日本語が判らないので同級生の見世物や笑い話になり、幼な心は大変惨めな思いに泣かされました。

それでも四年の担任「豊永治子先生・須崎中町健在」から、その時代外国人として破格の級長を任命された時、始めて私は、よっしゃやるぞと自信をもちました。

☆豊永先生からの便りを抜粋します。

（前略）小学四年の一郎君は知力体力抜群で、腕白盛りのクラスの級長として何かと助けて下さいましたね。その当時あなたに可愛がって貰った「哲史」（先生の長男で森岡清前校長と同級）も五十八才、妻と共に教員生活で三人の子の親となりました。（後略）

須工在学中は太平洋戦争のど真ん中で課外活動が多く、特に学徒動員令で松下電器須崎工場勤務の節は当時の桶野正二工場長から唯一人感謝状を戴くなど、努力の評価はされて卒業式の時、中内校長からそれを授与されました。

在学中、田村・桑原先生を始め分け隔てない教えの中で特筆したいのは、当時の軍事教員福本三朗教官の温情でして私が先生と惜別する際、「聞けば君は朝鮮人なりとか、君の如き優秀な若者は日本青年の中でも多からず、強く今のままに進め、君の前途を祝福する」と揮毫を下さり感激しました。大切にしています。

祖国へ還る

須工恩師の卓越した指導の元で完成した人格の青年となり祖国開放で帰国したもの今度は母国語が一言も話せぬ受難に打ちのめされます。（後略）

〔崔氏手記より〕

五月十四日三時、一行は晴天の金浦空港へ着陸し

ました。

ホールでは県外各地からの仲間と合流し、四十
年の再会に涙で抱き合ったり、崔氏と五十三年の
歳月を経ての握手は感動で胸が熱くなりました。

夕食会は記念品交換・自己紹介から崔氏主催のバ
ーティーでソウルの宵は盛り上がりました。

延べ四日の一般行動は省略して：総括に入ります。

前述の通り、崔氏の七十一年は日韓間の歴史的な
嵐に翻弄されての明け暮れをその国に順応し、忠誠
を評価され、帰国するや毅然と民族的活動に身を挺
して立身し、不動の立場を誇る事なく、今は異国の
母校への燃える慕情と純粋な同窓愛を僅か四日間の
日夜のスキんシップで私は、否、私達は全身でキャ
ッチしました。

だから、十八年卒と三十四年卒と、香川・岡山・
大阪・横浜・千葉・高知の仲間が崔氏を中心に先輩
も後輩もない須工仲間、期せずして全く心が一つ
になり日韓友好へ繋がった感激を忘れる事はありません。

終りに、この企画を執念でやり遂げた森下・氣配
りが大変だった田辺団長・精力的に関わった秋山夫
妻・団編成の誘い水で静かに活躍した高山(崔氏実
弟・須崎在住・誠実に経理を勤めた広見・常に大声
を出して楽しさとくつろぎを振りまいた星野旧姓長
山正・横浜在住・葉山出身・高山等と高校相撲大会
全国優勝)の諸氏に厚くお礼を申します。

あらがとつてございました。



須工同窓会

高知支部総会のご案内

【恒例によりまして、いつもの処で、
いつものように開催します。】

1. 日時 平成11年5月25日
18:00より(母校開校記念日)
2. 場所 高知会館(県庁前電車道南側)
電話0888-23-7123
3. 会費 一般¥5,000
特別¥3,000
平成8.9.10の卒業生
プラス写真代¥1,000
(受付で申し出て下さい)

老いも、若きも、女性・男性にかかわらず多勢の皆さんの
ご参加をお待ちしております。高知支部以外の方のご参加も
お待ちしております。

支部長 井上健弘 電話72-5075

須崎支部だより

昭和四十二年機械科卒 竹田友一

秋風の候 同窓会の皆様方におかれましては、
益々ご清栄の事とお慶び申し上げます。

同窓会事務局より広報の原稿の依頼がありシブシ
ブ筆を取りました。早いもので本校を卒業してもう
三十二年の歳月が流れました。

昭和四十二年機械科を卒業の後、私は大阪のスチ
ール家具メーカーに就職をしました。オフィス用製
品の製造会社で主に事務用机、書庫、カードネット、
ロッカー類と云ったものを完成品として出荷する工

場でした。会社の人員は百五十名程度の中小企業の
大と云ったところでしようか？社長は高知県仁淀村
出身と云うこともあって従業員の約七十%が高知出
身の人でした。大阪の地でありながら言葉はほとん
ど土佐弁でごく家族的な会社でした。一緒に入社し
た人員は十人程で入社式の社長の訓辞があり「今日
から私はあなたの方の親代わりであります」と云う言
葉が印象に残っています。

二週間の研修期間が終わった頃に須崎工業高校
の先輩の皆さんが私の為に歓迎会の用意をしてくれ
ていました。私より五年上の先輩を筆頭に七名全員
の先輩達が揃って出席してくれていました。まず私
が恐る恐る自己紹介をして「ビール」で乾杯の後私の
隣に座った先輩が「おんしゃあ家はどこなア！」
「はい！須崎の市内です」「そうか、おれは久礼ぞ！」
そんな会話から始まって、それぞれの先輩が学校の
事や、学校の先生の事、そして私自信の事、ほとん
ど質問せめに近い歓迎会でしたが、入社以来のそれ
まで緊張しっぱなしの私は、体の力がスーと抜けて
涙が出そうになった事を今もって忘れる事が出来ま
せん。その後私は十年間この会社で勤めさせて頂き
ました。その間先輩方には本当に色々な事で可愛が
って頂きました。

入社一年目、私がホームシックに掛かって落ち込
んだ時、先輩方が入れ替り、たち替り私の所に来て
気分転換にと云って映画を見に連れて行ってくれた
り、レストランに行つて「お前の一番好きな物を食
え」と云ってくれた事。私が希望した技術課で仕事
が出来るようにずいぶんとお骨折りました事。同じ
会社に住居の案内と知り合って結婚するまで、
色々な意味で温かく見守って頂いた事。数え上げれ

はきりがありません。残念な事は心待ちした私の後輩が入社してこなかった事であります。

昭和五十二年、永年お世話になった会社、先輩方に、何のご恩返しも出来ないままに別れを告げ、この須崎の地に帰って来て父の稼業の自転車店を継いで早二十一年になりました。母校を通じて知り合いのお世話になった五名の先輩方と今尚家内共々おつき合いをさせて頂いて居ります。

ある本の中に「邂逅こそが人生の中で一番のイベントであります」と書かれていました。私にとりましてもこの先輩方との巡り合いは「心の宝」だと思つて居ります。遅まきながら数年前から同窓会須崎支部のメンバーの一員として何かとお手伝いをさせて頂いて居りますが本年八月に平成十年度同窓会総会が開催されました。多数の皆様のご参加を得て無事総会も終了し、後の懇親会では懐かしい先生方や同窓生の皆さんと共に酒を酌み交わし、忘れ掛けていた学生時代の想い出話等それぞれが母校への思い入れを楽しく最後迄語り合っていました。

年々歳々人久しく

年々歳々人同じからず

時の流れの速さについてこんな句が頭をよぎる今日この頃であります。

最後になりましたが皆様方のご健勝を心よりご祈念申し上げます。

追伸「おまんも今度同窓会へ出てきいや！」

野並允温画伯

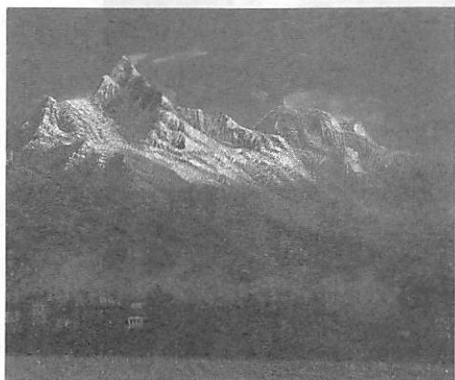
高知市に作品を寄贈

高知支部長 井上 健 弘

皆さまご存知の昭和三十年卒業の野並画伯。本年八月下旬高知大丸にて個展を開催。そこに松尾高知市長がご多忙の間を縫って来場下さいました。野並氏も丁寧に説明、ゆつくり鑑賞頂いたお礼にと一幅の絵を市に寄贈する旨約束。

八月二十五日十四時半市長にお会いし簡単な贈呈式を行う。各新聞社も画伯に取材、高知は夕刊他社は朝刊で報道。市長との対談は野並氏の生い立ちに始まりネパールへ繋がる発端から今までの道程へと進み三十分近く話に花が咲いた。最後に感謝状が贈られ、画伯から「おれとご健康に留意され市政に励まれますように」と申し上げると、市長も「あなたも益々活躍されることを期待しています」との励ましを受けた。

尚作品「古里の滝に秋来る」二〇号は市長応接室入口に飾られている。



「シード校を倒す！」を合言葉に

高知県立須崎工業高等学校

野球部監督・教諭 柳 本 朋 幸

明徳義塾高の甲子園ベスト四に沸いた九十八年第八十回全国高校野球選手権大会も終わり、各校とも新チームで秋の四国大会へむけて出発をしました。

九月十七日、本校は機会あってこの明徳義塾高と対戦しました。序盤から連打をくらひ大量リードを許してしまいましたが、中盤から打線が食いつき、夏を返して一時は接戦となりました。しかし、夏の甲子園組のスイングは鋭く徐々に加点され、結局七点差をつけられ十対三で敗れてしまいました。私自身、この結果はある程度予想はしていましたが、この敗戦での部員達の表情には大きな変化がありました。敗戦後はその日のうちに徹底したランニングを行っていますが、この日の帰校してのランニング練習には、活気のようなものを感じました。まだまだ十分ではないけれど敗戦の悔しさを闘志に変えていくような表情もみられました。

今年の夏の県予選。開幕戦で明徳義塾高と対戦し二十対一のコールド負けという屈辱を味わひ、三年生は涙を流し現役を引退していきました。この三年生の悔しさを一・二年生はベンチで共に体験しました。

今年の新チームは、一年生九名、二年生八名、女子マネージャー一名の計十九名。新入生次第では、春には三十〜四十名になるほどの近年にない大所帯です。又、部員の中には身長百八十以上のものや体

重八十kg以上のものも五・六名います。上位校から比べても体格的に見劣りする事もなく、この冬の体力トレーニングによつては、好選手に変身する可能性を秘めた部員もいます。性格的にはおとなしい部員が多いので闘志が表へ出ないところが、私自身腹立たしい頃もありましたが、それも徐々に改善されてきています。本校には、相撲・空手道・ソフトボールと全国級のクラブもあります。各クラブが共に刺激あつて活動をする環境ができていたので、野球部もその波に乗って盛り上げていきたいと思ひます。

現在の高知県の高校野球勢力図は三強の突出はいうまでもなく、最近では明徳義塾高の全国区化により、公立校野球部をとりまく現状は大変厳しく「シード校を倒す！」と意気込んでも、その方法はそう簡単には見つかりません。しかし、高校生の可能性は無限です。各クラブとの競争、部員増・地元の少年の野球人気の復活など、本校野球部に対する追い風の要素もたくさんあります。

私自身、本校へ赴任して二年目をむかえ、やつと色々な教育活動にも慣れてきて、これからが正念場であると思っています。

「三強・シード校・明徳義塾高を倒す！」を合言葉に須崎工業高校野球部はこれからも挑戦し続けま

す。同窓生の皆様には、日頃から部費の為のジュースや干物の販売にご協力頂き有難うございます。この場を借りて、お礼を述べさせていただきます。これからも宜しく願ひします。



第二回須崎支部

かわうそ杯ゴルフコンペ開く

ゴルフを通じて須崎工業高校OBの親睦を深めようと、去る十月十八日高南カントリークラブで須崎支部主催による第二回目のゴルフコンペが開催されました。

総勢二十余名で初対面・顔なじみ・それぞれ挨拶を交わし合いつつ、「我こそは」とスタートしてゆく格好いろいろで、老いも若きも須崎OBという絆が親しみを生み、何と愉快な一時であったことか。夜の懇親会は、これ又賑やかというよりやかましう意気は本物でした。この日は、第三日曜日大安という日で祝事のために都合の付かない人が多数居たため、今回の開催に多くの注文がありました。ともあれ、「たかがゴルフ」であっても、同窓会の名のもとに互の親睦、交流ができてゆけることに支部活動の意義があるのではないのでしょうか。



事務局長退任の挨拶



昭和三十九年機械科卒

井上 耿介

同窓会の皆様方におかれましては、お元気で過ごし、この事を存じます。

私事で恐縮ですが、本年度春の教員人事異動により高知東工業高等学校に転勤致しました。

そのようなわけで同窓会事務局長として、五年間勤めさせて頂きましたが、辞任致します。

五年前に、前事務局長の武森先生が転勤され、突然に事務局の経験のない私が事務局長に指名されました。事務局長としては、会員皆さんの親睦と交流・母校の発展を念頭に置き活動しました。

本部役員や支部役員の皆様を初め、沢山の会員の方にお力添えを頂き、何とか自分の力不足を感じながらもこの大任を勤めることができました。

ご支援下さいました方々に紙面をお借りいたしました。御礼を申し上げます。

本部事務局は、新たに津野隆氏(四十一年造船科卒)が、事務局長になられましたのでよろしくお願ひいたします。

同窓会は、今重大な岐路に立たされております。母校も、一学年四クラスとなり、今後についても

高校生の生徒数が減少する見通しで、須崎工業高校の存続をかけて努力しなければなりません。

又このことは、毎年の卒業生数の減少となり、同

窓会運営についても、総収入より支出が上回り本年度より赤字経営となります。

このような折ですので、会員の皆様方の尚一層のご協力と、ご支援をお願い致します。

同窓会の皆様方におかれましては、ご健勝のことと存じます。

事務局長就任の挨拶

昭和四十一年造船科卒

津野 隆

四月の教員人事異動により、井上耿介事務局長が東工業高等学校に転勤されました。井上事務局長は長年にわたり同窓会事務局を担当され、特に事務局長として同窓会会長の引継、総会・理事会の運営、低金利時代に於いての終身会費の運用、各支部並びに職域の確立等に精力的に活動して下さいました。心より感謝いたします。

その後任として、事務局の仕事経験の浅い私が大

役を仰せつかりました。少子化による生徒数減少に伴い普通高校との合併、総合学科の構想も県委員会より出されています。須崎工業高校の名前を消さないように、学校現場だけでなく同窓会としても組織だつて、果に働きかけて行く必要があります。

このことも含め、役員の皆様や会員の方のお力添えをいただき同窓会発展のために努力する所存でございますので、どうぞ宜しくお願ひ申し上げます。

事務局だより

開校記念日行事として、五月二十七日に講演、そして校内綱引き大会を行いました。

講師として岡林謙氏（昭和三十七年造船科卒）に『人との出会い』をテーマにお願いしました。

岡林氏は、アメリカン・ビューロー・オブ・シッピング（ABS）の日本のマネージャとして活躍されています。

人との出会いを大事にすることにより、自分自身を磨き仕事・生活面において大いに役立つことになる。

又、他人への思いやりも考えるようになる等わかりやすく話して下さいました。改めて、講演のお礼を申し上げます。

この後、科別綱引き大会が行われ、今年は造船科が優勝しました。

平成十年度同窓会総会が八月九日にJA土佐くろ

しおに於いて、一四〇名の参加の中で盛大に開催されました。総会の議題については次の通りです。

一、平成八・九年度の事業報告・会計報告並びに

監査報告（承認）

二、役員改正

新任副会長

岡林幸保（前常任理事）

事務局長

津野 隆（前常任理事）

常任理事

井上健弘（高知支部長）

理事

井上耿介（前事務局長）

理事

竹内良一（前副会長）

理事

坂本臣三（前監査）

監査

坂本 操（前理事）

監査

西森 豊（S四十五年電気科卒）

新任の役員の皆様方宜しく願います。

退任

堅田 耕勇（理事）

退任

堅田 耕勇（理事）

退任

堅田 耕勇（理事）

退任

堅田 耕勇（理事）

退任

堅田 耕勇（理事）

同窓会終身会費納入のお願い

同窓会の運営は、会則第七章会計、第二十一条に基づいて、会員の皆様からの入会金、会費、寄付金を持って充てていますが、その中でも卒業生からの終身会費が、主な財源となっております。

事務局におきましては、納入いただきました終身会費を積み立て、その利息で、活動資金の大半を捻出しています。

この実情にご理解戴き昭和五十三年以降の卒業生は、卒業の時点でほとんど納めてくれていますし、平成四年以降の卒業生は、卒業時全員納入いただけるはこびとなっております。

終身会費未納の皆様方には、（に）しきうら」郵送封筒表宛先右下に、納入済の方は納済み、未納の方は未納と記入しております。同窓会活動を今後とも益々発展させるため、是非とも早い時期に終身会費を納入下さいませよう、ご協力お願い致します。

平成八年八月の総会にて終身会費の値上げを決定いたしました。一万五千円を納入下さい。

退任されました三氏には、長年誠にありがとうございました。今後とも宜しくお願い申し上げます。

三、会則・規定の改正（以下にて改正、承認）

会則第四章第六・八条

幹事・監査 平成九年四月一日改正

旅費規定

日当 半日 八〇〇円 一日 一六〇〇円

宿泊料 四国内 七四〇〇円 四国外 八二〇〇円

慶弔・見舞金贈与規定

出場祝い金 一人一〇〇〇円

個人競技 一人一〇〇〇円

団体競技 三〇〇〇円

平成九年六月八日改正

四、その他

田辺博造氏（高知支部）より、韓国同窓会ツア

ーについて報告がありました。

十分間の休憩後、「卒業以来やねや」「元氣やったか

え」等々の声が聞こえる中、和やかに盛大に楽しい

懇親会となりました。次回総会（平成十二年）には

皆様是非ご参加をお願いします。



平成9年度決算報告書

目	金額(円)	備考
収入		
前年度繰越金	477,172	
新入生入会金	224,000	112名×2,000円
雑収入	744	
特別金計利息	137,257	
特別金計補助	2,200,000	
合計	3,039,173	
支出		
会費	60,138	
事業費	1,793,566	開校記念品代 37,406 会報印刷代 671,743 会報送料 507,620 封筒代 36,750 卒業証書九箇 21,504 始建退・寄付 500,000 その他 18,543
通借費	24,865	
事務費	569	
庶務費	213,705	
支部配分金	790,800	
雑費	7,278	
旅費	112,440	
子計	0	
収入支出残額	3,003,361	
3,039,173 - 3,003,361 = 35,812円		
現金内訳	高銀普通預金	35,812円

〈特別会計〉

目	金額	備考
収入		
前年度未精立額	35,250,000	
本年度納入額	2,320,000	新卒(1,920,000) 旧卒(400,000)
一般金計補助	2,200,000	
合計	35,370,000	

監査報告

諸帳簿及び監査書類等により監査の相対金額その他については相違なく、預金通帳・定期預金証書とも確實に管理適正に執行されている。

平成10年4月14日

監査 坂本 臣三 博
" 松浦 博

平成10年度予算(案)

【収入】

目	金額	備考
前年度繰越金	35,812	
新入生入会金	274,000	2,000円×137名
特別金計利息	137,446	定期利息
雑収入	2,742	
特別金計より補助	2,650,000	一般預金利息・その他
合計	3,100,000	

【支出】

目	金額	備考
全額	60,000	開校記念簿打合せ会・理事会
事業費	1,793,862	開校記念品代 33,862円 会報・印刷・紙巻用紙代 650,000円 会報・送料代 500,000円 会報・封筒代 40,000円 卒業証書用九箇 20,000円 コンピュータ更新 400,000円 総会準備金 100,000円 その他(会・標旗代) 50,000円
通借費	30,000	
事務費	30,000	
庶務費	140,000	
旅費	200,000	
支部配分金	784,800	東 347名×200円 = 69,400円 京 204名 = 40,800円 中 87名 = 17,400円 大 879名 = 97,800円 高 879名 = 175,800円 須 1,704名 = 340,800円 賀 110名 = 22,000円 崎 104名 = 20,800円
雑収入	10,000	
子計	51,338	
合計	3,100,000	

平成10年度特別会計予算(案)

目	金額	備考
収入		
前年度未精立額	35,370,000	
10年度納入予定額	1,605,000	新卒予定 107名×15,000円
合計	600,000	旧卒予定 40名
一般金計へ補助	37,575,000	
支出		
合計	2,650,000	
平成11年度へ繰越立額	34,925,000	

終身会費納入済者名

(平成9年10月1日～平成10年9月30日)

ご協力に感謝とお礼を申し上げます。

弘瀬 守	石村 桂一	橋本 賢二	<昭和49年>	<昭和23年>
廣瀬 忠良	井上 一孝	濱口 顕次	機 械 科	機 械 科
毛利 直弘	井上 友幸	正岡 和也	林 正純	松尾 意廣
矢野 啓治	岩本 和昌	森 慶	<昭和50年>	<昭和24年>
矢野 伸也	大崎 涼	森光 章裕	機 械 科	機 械 科
山中 直樹	片岡 干城	森光 朗夫	藤本 幸生	岡 恒
	黒岩 洋介	矢野 一成	<昭和52年>	<昭和27年>
電 気 科	古賀 大智	矢野 雄大	機 械 科	機 械 科
池本 雄一	古味 久嗣	山本 千博	梅原 勝実	有本 哲郎
市川 俊秀	塩田 祐政	雪澤 太一	<昭和54年>	西川 三雄
伊藤 康浩	島崎 務		機 械 科	<昭和31年>
岩本 健士	高橋 廣二	機械科B組	宮地 友幸	機 械 科
植村 嘉文	谷岡 伸治	市川 文隆	<昭和56年>	池田 健朗
氏原 宏治	谷本 浩助	岡 真一郎	化学工業科	<昭和34年>
梅原 裕嗣	田部 一也	渡本 涼一	戸田 啓二	機 械 科
大内 直彦	中城 克仁	片岡 大吾	<平成10年>	谷脇 正融
大地 憲勝	鍋島 晋	川崎 守一	機械科A組	<昭和35年>
尾崎 吉伸	藤田 学	川崎 新吾	青井 聡	機 械 科
小嶋 等	藤原 龍治	北岡 直人	石戸 雄二	吉川 和文
片岡 潤	明神 泰史	北添 寛章	大崎 優	<昭和36年>
川上 兼明	山崎 正	木村 数義	大住誠次郎	電気通信科
佐竹 亮	山中 祐輔	塩田 直仁	岡 健太	板橋昇八郎
下元 克哉		竹本 龍一	尾張 修治	<昭和37年>
竹崎 雅晃	化学工業科	谷 正道	片岡 正昭	電気通信科
竹下 和孝	市川 裕也	中山 智仁	川村 誠	佐野 洋三
武政 史憲	蛭子 和英	西村 圭二	北代 智志	<昭和38年>
田邊 伸弘	岡田 祐一	西村 洋人	國行 耕征	機 械 科
谷山 浩司	片岡 亮	林 祥孝	黒原 正仁	政岡 博志
津野 友和	坂本 聖	弘田 和久	小田 幸慶	電気通信科
長尾 慎也	芝田 由理	藤岡 和也	西原 朋輝	矢野 和文
西川 賢	竹本 岳人	松本 方則	酒井 良太	<昭和42年>
藤澤 健介	谷脇 智	毛利 匡秀	佐竹 拓也	機 械 科
正木 智和	寺岡 健二	矢野 太一	塩田 慎吾	吉田由太郎
味元 裕次	中山 武利	山本 幸平	高橋 健一	<昭和45年>
明神 信親	西田 陽介	横飛 正樹	戸梶 健一	機 械 科
毛利 和紀	橋田 知幸	吉谷地 賢	中澤 紀之	山本 賢士
吉田 正男	長谷川 淳		西森 仁彦	化学工業科
吉村 透	原 慎也	造船科	西森 雄介	玉川 歳倍
		安藤 裕司		

平成10年度 役員名簿

役職	氏名	卒コード	科別
相談役	田辺 博造	S18-013	機械2種
"	清家 寛	S18-010	機械2種
"	森岡 清	S26-020	機 械
名誉会長	尾崎 翹彦		
会 長	寺田 郁雄	S21-025	機械1種
副会長	岡林 幸保	S28-038	造 船
"	下元 征夫	S37-129	電気通信
"	津野 隆	S41-090	造 船
常任理事	森下 春茂	S21-019	機械1種
"	武内 徳雄	S23-034	機械2種
"	井上 健弘	S27-002	機 械
"	井上 耿介	S39-004	機 械
"	山地 健三	S39-180	化学工業
"	高橋 三雄	S32-019	機 械
"	植田 幸子	S32-095	電気通信
"	山崎 吉広	S33-087	造 船
"	西森 昌身	S34-121	電気通信
"	竹崎 貞男	S43-040	機 械
"	西山 庸一	S48-090	造 船
"	山岡 英樹	S57-034	機 械
理 事	中平 萬年	S18-017	機械2種
"	川添 泉	S21-012	機械1種
"	廣瀬 理	S21-029	機械1種
"	山田 豊	S21-035	機械1種
"	吉村 功	S21-081	機械2種
"	竹内 良一	S25-014	機 械
"	坂本 臣三	S25-009	機 械
"	野瀬 公介	S31-099	電気通信
"	中西 安男	S32-023	機 械
"	江口 長勲	S33-041	機 械
"	沖本 毅	S33-012	機 械
"	松浦 政志	S35-065	機 械
"	笹岡 文子	S39-157	化学工業
"	竹田 友一	S42-042	機 械
"	梅原 正博	S47-116	化学工業
"	坂本 定浩	S54-009	機 械
監 査	坂本 操	S43-030	機 械
"	西森 豊	S45-015	電 気

支部長	幡多：松浦 政志	窪川：川添 泉	須崎：山地 健三	高知：井上 健弘
	大阪：山田 豊	京滋：田村 武夫	中京：沖本 毅	関東：野瀬 公介

校歌

- 一、須崎工業高校の
教の庭に身と心
新天新地光明の
輝やくもとに勇まし
く
日々鍛いぬく健児団
- 二、自然の暗示わが教
太平洋の荒波は
わが人生の活動か
さらに心の平穩は
波静かなる錦浦
- 三、工業報国理想とし
自主独立の精神を
いだき責務を怠らず
真理と正義重んじて
わが向上の道を逐う

新聞広告の依頼（協賛金）

にご注意下さい。

最近、須崎工業高校〇〇周年記念等の新聞広告を出すので、協賛金をお願いしたいとの勧誘がありますが、学校、同窓会では、一切その様な広告を出しておりませんので、お断り下さい。

各種証明書の発行について

（母校事務室からの伝言）

証明書が必要なときは、法令の定めにより証明書交付申請書別紙（用紙は事務室に備付）を校長宛提出しなければなりません。（第二号十九頁の様式）

申請書には必要事項記入のうえ押印し左記金額に相当する高知県収入証紙を貼付してください。遠隔地からの申込みは事務手続に相当の日数を要しますので早目に申込みをしてください。又県外には高知県収入証紙は販売していないので、現金、又は郵便小為替を同封してください。

なお返信用の封筒には切手の貼付、住所、氏名、郵便番号をお忘れなくご記入ください。

手数料は次のとおりです。

卒業証明書	一通につき四〇〇円
成績証明書	一通につき四〇〇円
単位修得証明書	一通につき四〇〇円

送付先 千七百八十五・八五三三

須崎市多の郷和佐田甲四一六七ノ三
高知県立須崎工業高等学校事務室
電話（〇八八九）四二一・一八六一
FAX（〇八八九）四二一・一七五

証明書の件につき不都合または不明な点等がありましたらいつでも右記電話番号の証明係までお電話ください。

編集後記

例年のことながら、各支部や会員の皆様に原稿をご依頼しましたところ、ご多忙中にもかかわらず心よくご寄稿頂きありがとうございます。

会報「にしきうら」第二十三号を、お送り致します。会報届先不明者の住所等ご承知の方並びに住所・勤務先が変更になった方は、会報の折り込み薬書で事務局まで連絡下さいますようお願い致します。

平成十一年度も会報第二十四号を発行予定しておりますので、ぜひ皆様のご寄稿をお願い致します。尚、勝手ながら、原稿は九月五日までに事務局にお寄せ下さい。

編集委員

会報「にしきうら」第二十三号

平成十年十二月一日発行

高知県立須崎工業高等学校

発行所 同窓会事務局

有限会社笹岡印刷所

印刷所 高知県須崎市東古市町二番十六号

☎（〇八八九）四二一・〇二四番